

【建コン協若手の会 若手技術者交流会 in 中国 次世代担う60人討論】

若手技術者交流会 in 中国

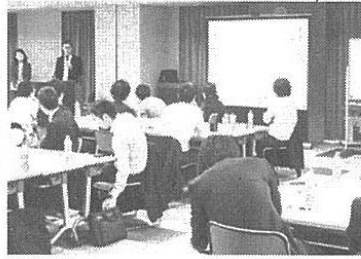
次世代担う60人討論

協会の
建若

建設コンサルタツツ協会（建コン協）の『業界展望を考える若手技術者の会（伊藤昌明代表）』は27日、若手技術者交流会 in 中国”を広島市中区のまちづくり市民交流プラザで開催した。これ



伊藤代表



交流会のよう

からの業界のあり方や働き方をテーマとし、次世代を担う若手が本音で討議。伊藤代表は「アクションなくして、リアクションなし」と訴えた。交流会には、本部若手の会のメンバーをはじめ

め、北陸・東北・関東・近畿・中国・四国・九州支部の若手組織の代表者や、中国支部の公募で集まった若手技術者など合計60人が参加した。はじめに、建コン協中国支部『若手技術者の会』の桑田志保代表が開催趣旨を説明し、「若手が組織を横断して集まることは少ない。本日は、活発なディスカッションをしてもらいたい」と述べた。その後、伊藤代表が若手技術者の会の活動などを報告した。この中で、伊藤代表は、若手を対象

としたアンケート結果をふまえ、現状の働き方について「なんとかモチベーションを保っているが、将来にハッキリとした夢や希望が持てず、いつかは転職という選択肢もよぎりながら、悶々（もんもん）と仕事をしている」と問題提起。

若手は「自分の能力や専門性を高めることで社会的に認められたい」とや「収入が少なくなっても、仕事とプライベートのバランスを取りながら働きたいこと」などを志向していると指摘し、「働き方変革」の方向性としては『多様性の享受』と『生産性の向上』の2点をあげた。また、生産性の向上に関しては、生産性の低い最大要因を「発注者からの手戻り」と断言。手戻りを最小化する取り組みを訴えたほか、若手の会の存在意義も唱え、「業界活性化の一大ムーブメントを興していこう」と呼びかけた。

このほか、各支部における活動状況が紹介され、ウィークリースタンス実現に向けた取り組みや、土木の道を目指す人を増やすための取り組みなどが報告された。また、生産性向上の方法や、人材確保に向けた業界PRの拡散方法をテーマに、課題やボトルネックを洗い出しながら、解決策などを導き出すグループディスカッションも行われた。